

## 安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
  - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**  
**注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

- ### 警告
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
  - 交流100V以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
  - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
  - 電気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
  - 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線は感電や火災の原因になります
  - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けます
  - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すこと  
火災などの原因になります

- ### 注意
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること  
火災・故障の原因になります
  - レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラッス網など)と接触しないよう取り付けます  
漏電した場合、発火するおそれがあります
  - アースを確実に取り付けます  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  - 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気される配慮をすること  
排気ガスが室内に逆流し、一般化炭素中毒を起こすおそれがあります

- ### 注意
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)  
感電および故障の原因になります
  - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります
  - 運転中は、指や物を絶対に入れないこと  
けがをするおそれがあります
  - 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
  - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをするおそれがあります
  - 部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをするおそれがあります
  - 作業は2人以上でおこなうこと  
レンジフードは35kgの重さがあります

## 取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者がおこなう必要があります。
  - ・大工工事(設置のための下地工事等)
  - ・配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続)
  - ・管工事(ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続)
- 流通業者(販売店)を通じて組立・設置する場合は、「建築工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領指図書」(検査要領書)に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前部より手前にはみ出さず、設置しないでください。排気効率が低下します。
- 鋼板裏面の排気口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの透気抵抗は400m<sup>2</sup>/h静50Pa以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりで排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効率をいじりくく低下させたり、騒音が大きくなるので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。なお、レンジフード取付高は、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- ダクトは必ず屋外用に向けて下り勾配を付けてください。(目安:勾配1/100~1/50程度)、雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフード取付面の補強部は、取付用座ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座ねじは45mmの長さのものが同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、湯沸器の上方50cm以上離して取り付けください。湯沸器の真上は高温になるため、火災の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 建物が密集している場合は必ず、400cm<sup>2</sup>程度の換気取入口を設けてください。
- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集されず、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合があります。必ず不燃処理された耐熱材を巻くなどの対策をってください。
- 同時給排モデルレンジフードをお使いの場合でも、レンジフードによる排気と給気量が同じとは限りません。建物の気密性によっては給気が必要になる場合があります。給気量が不足すると、不完全燃焼、吸い込み不良、異音、扉の開閉に支障が出るなどの不具合が発生する場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

## 取り付け前の調査と準備

### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラッス網など)と接触しないよう取り付けます  
漏電した場合、発火するおそれがあります

### 注意

- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります
- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをするおそれがあります

## 1 取付面の強度確認

製品を支える強さが必要です。 **製品質量 35kg**

- 板厚0.7mmの場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください)
  - ・板厚が20mm未満の場合は壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
  - ・板厚が20mm以上の場合は補強板の必要はありません。
- コンクリート、タイル壁の場合
  - ・あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールブラク等を使用し固定してください。
  - ・土壁の場合
    - ・柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

## 2 別売部品の準備

レンジフードに付した別売部品の準備が事前に必要です。

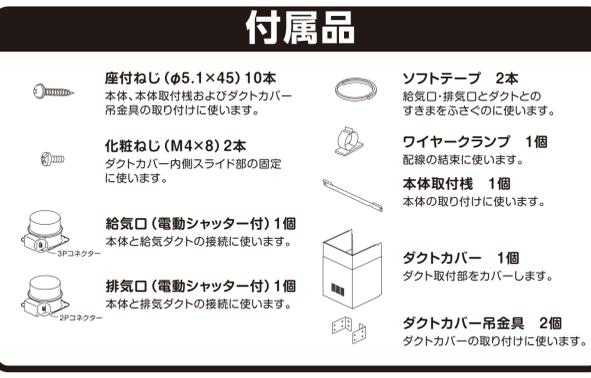
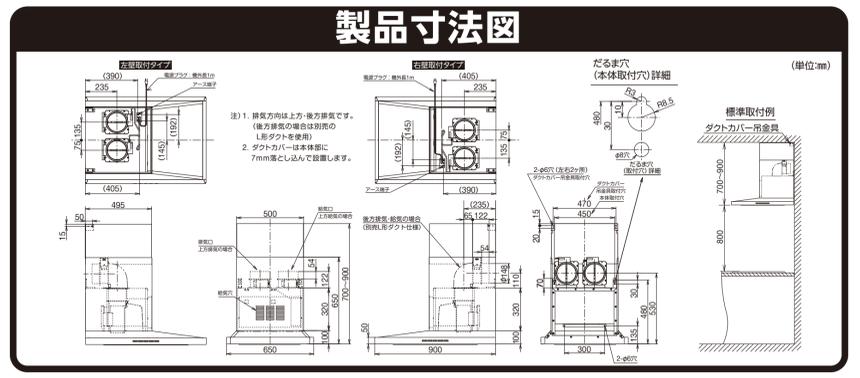
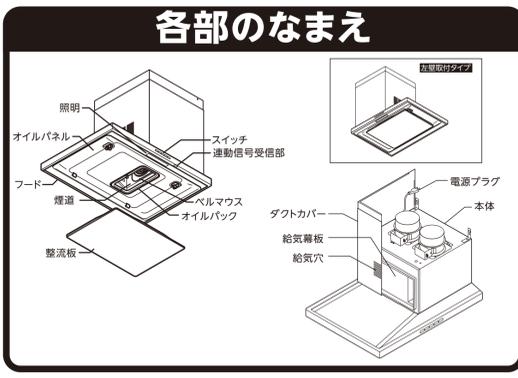
## 3 標準取付法

本製品の標準取付方法は、調理機器の上からレンジフードの下端まで80cmです。  
※火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

## 4 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは、専用のものを設置してください。(交流・単相100V)コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。

**お願い**  
必ずアース工事(D種接地工事)をしてください。レンジフードが動作することがあります。



## 取り付けかた

## 1. 付属品の確認

### 注意

- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

手袋をする

付属品を確認します。  
梱包箱からダクトカバー、排気口、給気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

**お願い**

- 保護用のクッション材と、固定用テープはキズ、破損防止のため、「8.固定テープの取りはずし」まででずさないでください。(図1-1)
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

## 2. 給気・排気方向の決定

### 警告

- 電気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けます  
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材を使用して可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります

### 注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります

## 3. 給気・排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口および排気口を用意してください。

**お願い**

- シャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。

### ■ 上方給気・排気の場合

### ■ 後方給気・排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

## 4. 本体の取り付け

### 注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをするおそれがあります

レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理室に滴下することがあります。

キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

## 5. ダクトと給気・排気用部品の接続

**お願い**

- ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじを使用範囲内に固定してください。(図5-1)

### ■ 上方給気・排気の場合

ダクトと給気口・排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図5-2)

### ■ 後方給気・排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

#### 1 給気口・排気口を取り付けます。(図5-3)

本体の給気口・排気口取付位置についてのなべねじ2本をはずした後、L形ダクトを本体上側の差込部に差込みながら、給気口・排気口をダクトに挿入し、はずしたなべねじ2本で取り付けます。

排気口取付位置近傍のねじは取りはずさないでください。

#### 2 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図5-3)

#### 3 信号線を接続します。(図5-4)

1) 給気口および排気口に本体からの信号線を接続します。  
※信号線の接続は正しくおこなってください。

2) 余った配線は付属品のワイヤークランプで配線を結束します。

## 3. 給気・排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口および排気口を用意してください。

**お願い**

- シャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。

### ■ 上方給気・排気の場合

### ■ 後方給気・排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

## 4. 本体の取り付け

### 注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをするおそれがあります

レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理室に滴下することがあります。

キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

## 5. ダクトと給気・排気用部品の接続

**お願い**

- ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじを使用範囲内に固定してください。(図5-1)

### ■ 上方給気・排気の場合

ダクトと給気口・排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図5-2)

### ■ 後方給気・排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

#### 1 給気口・排気口を取り付けます。(図5-3)

本体の給気口・排気口取付位置についてのなべねじ2本をはずした後、L形ダクトを本体上側の差込部に差込みながら、給気口・排気口をダクトに挿入し、はずしたなべねじ2本で取り付けます。

排気口取付位置近傍のねじは取りはずさないでください。

#### 2 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図5-3)

#### 3 信号線を接続します。(図5-4)

1) 給気口および排気口に本体からの信号線を接続します。  
※信号線の接続は正しくおこなってください。

2) 余った配線は付属品のワイヤークランプで配線を結束します。

## 6. 電気配線

### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流100V以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けます  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります

## 7. ダクトカバーの取り付け

### 1 取付位置を確認します。(図7-1)

製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊金具の取付位置を確認します。

### 2 ダクトカバー吊金具を取り付けます。(図7-2)

ダクトカバー吊金具を図のように付属品の座付ねじ(φ5.1×45)4本で取り付けます。  
※レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けください。

### 3 ダクトカバーを取り付けます。(図7-3)

ダクトカバーを整裏まで持っていき、フードの溝に置きまします。

**お願い**  
ダクトカバーを取り付ける際ダクトカバー下端でフードの上面を傷つけないように十分注意してください。

### 4 ダクトカバーを固定します。(図7-4)

ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4×8)2本でダクトカバー吊金具に固定します。(図7-4)

### 5 傷防止テープを貼ります。(図7-5)

ダクトカバーがしっかりと取り付いたことを確認し、フード天面の傷防止テープをはがします。(図7-5)

## 8. 固定テープの取りはずし

### 1 整流板をはずします。(図8-1)

● 保護用のクッション材、固定用テープをはずしてください。

1) 整流板を両手で支え、少し押し上げるようにして整流板の左右にあるストップを押してはずします。(図8-1)

2) 整流板を両手で支えながら、下へゆっくりおろします。(図8-1)

3) 整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊金具から整流板引掛金具をはずします。(図8-2)

※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

### 2 オイルバックとオイルマウスを固定しているテープをはがします。(図8-3)

● 固定テープをはずした後は、はずした部品をまとめておとり取り付けてください。

## 6. 電気配線

### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流100V以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けます  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります

## 7. ダクトカバーの取り付け

### 1 取付位置を確認します。(図7-1)

製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊金具の取付位置を確認します。

### 2 ダクトカバー吊金具を取り付けます。(図7-2)

ダクトカバー吊金具を図のように付属品の座付ねじ(φ5.1×45)4本で取り付けます。  
※レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けください。

### 3 ダクトカバーを取り付けます。(図7-3)

ダクトカバーを整裏まで持っていき、フードの溝に置きまします。

**お願い**  
ダクトカバーを取り付ける際ダクトカバー下端でフードの上面を傷つけないように十分注意してください。

### 4 ダクトカバーを固定します。(図7-4)

ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4×8)2本でダクトカバー吊金具に固定します。(図7-4)

### 5 傷防止テープを貼ります。(図7-5)

ダクトカバーがしっかりと取り付いたことを確認し、フード天面の傷防止テープをはがします。(図7-5)

# 原寸大型紙 (寸法単位はmm)

**お願い**  
この型紙は湿気の影響で2~3mm誤差が生ずることがあります。寸法をお確かめの上ご使用ください。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

**取扱説明書・取付説明書は必ず使用されるお客様にお渡しください。**

※表面は取付説明書になっています。よくお読みになり正しく取り付けをおこなってください。

## 取り付けかた (つづき)

3 整流板を取り付けます。  
整流板を、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

### 9. 試運転

#### ⚠ 注意

● 運転中は、指や物を絶対に入れないことがをすすめるおそれがあります



- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 最終設置した状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材をもとの状態に取り付けてください。

### 10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

(製造元) 富士工業株式会社

本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号  
TEL 042 (768) 3754 (営業部)

